



第9期第3回磐田市環境市民会議

令和5年8月28日（月）



(2) 第2次磐田市環境基本計画 令和4年度の進捗状況について



昨年度、皆様にご協力いただいた「第2次磐田市環境基本計画後期計画」は、今年度から始まっていますが、本日ご報告するのは、前期計画の最終年度である令和4年度の進捗状況になります。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針1 暮らしやすさが実感できる環境をつくります

人々が暮らしやすさを実感するためには、爽やかな空気や美しい水を守る必要があります。このため大気や水質等の現状を把握するとともに、監視や指導を着実に行っていきます。

水質に係る環境基準達成率						
河川における生物化学的酸素要求量(BOD)に関する環境基準を達成した測定地点の割合						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	100%		100%	100%	100%	100%
						2022
						100%

大気に係る環境基準達成率						
二酸化硫黄(SO ₂)、二酸化窒素(NO _x)、浮遊粒子状物質(SPM)、微小粒子状物質(PM _{2.5})に関する環境基準を達成した測定地点の割合						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	100%		100%	100%	100%	100%
						2022
						100%

污水処理人口普及率						
公共下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽により汚水が処理されている人口を住民基本台帳登録人口で除した割合						
目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021
	93.48%		89.88%	90.63%	90.92%	91.70%
						2022
						92.30%

※目標値は「磐田市一般廃棄物処理基本計画」に準ずる

前期計画の冊子、24ページにあります、環境指標の結果についてご報告します。

・水質に係る環境基準達成率 河川におけるBODという指標値が環境基準を達成した測定地点の割合です。各地点の年平均数値でみて、すべての地点で、環境基準を達成しました。

・大気に係る環境基準達成率 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質に関する環境基準を達成した測定地点の割合。大気の常時監視システムによる測定により、こちらもすべて基準を達成しました。

・污水処理人口普及率 これは、公共下水道や農業集落排水、合併処理浄化槽を使用する人口の割合となります。2022年度の結果は92.3%でした。目標値は2021年度に93.48%でしたが、達成できませんでした。この目標値は、「一般廃棄物処理基本計画」に掲げられた目標に準じていますが、この一般廃棄物処理基本計画が令和4年度から新たな計画になっており、令和8年度に95%を目指す新たな目標を持っています。これに合わせ、合併処理浄化槽設置補助制度を見直すことで単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの転換を推進し、汚水処理事項普及率の向上を図っていきます。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針2 豊かな自然環境を守ります

私たちの暮らしを包む山や川・海・森などの自然と、そこで生きる多くの生き物を市民共通の財産として守り育て、次世代に引き継いでいきます。

市民一人当たりの都市公園等面積						
<small>民間開発等により開設された公園、交流センター、学校等のグラウンド、市民農園等を含む。</small>						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	21.27㎡		15.59㎡	15.61㎡	15.67㎡	15.79㎡
						2022
						15.79㎡

※目標値は「磐田市緑の志」の目標値。

耕作放棄地面積						
<small>1年以上作付けされず、今後数年の間に耕作する意志のない農地の面積</small>						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	93ha		99.0ha	99.4ha	92.1ha	85.4ha
						2022
						90.0ha

ベッコウトンボの定量調査発生数						
<small>併年行う個体数調査で確認できた個体数における年間入場者数</small>						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	200頭以上		91頭	102頭	23頭	67頭
						2022
						380頭

基本方針2、豊かな自然環境を守ります、の指標です。

一つ目、市民一人当たりの都市公園等面積は、2022年令和4年度に15.79㎡という結果でした。

これらの面積には、都市公園のみではなく、民間の開発などにより開設された公園、交流センターや学校等のグラウンド、市民農園などを含んでいます。市として公園を増設する予定がない限り、民間の区画整理などによって公園や緑地が増えたときに加算されます。

二つ目、耕作放棄地面積は、目標値93ha以下に対し、令和4年度は90haと目標値を達成しています。

三つめは、ベッコウトンボの定量調査発生数です。令和4年度の調査会は4/25,4/29の二日間行われ、このうち多かった日の結果を採用していますが、令和4年度は380頭確認されました。目標値200頭以上を達成しています。これは、調査日の気象に恵まれたことや、これまでの沼の環境改善等の試みが成果として現れたことが考えられます。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針3 自然・歴史文化とふれあう機会をつくります

良好な自然や歴史的な文化遺産がもたらす景観は、私たちが快適な暮らしを営んでいくために欠かせないものです。このため自然や歴史文化の特色を活かした暮らしやすいまちづくりを推進します。

自然観察会等に参加した人数							
自然観察会や体験教室、環境保全啓発行事等の参加人数							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	700人		1,184人	915人	173人	236人	282人

歴史文化とふれあう市の施策に「満足」している市民の割合							
普及啓発のための企画展等で実施するアンケート調査において、「満足」「良かった」等肯定的な回答の割合							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	90%以上		91.2%	96.3%	84.6%	90.9%	95.0%

文化財関係施設の入館者数							
旧見付学校・旧赤松家記念館・埋蔵文化財センター・竜洋郷土資料館における年間入場者数							
目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	48,500人		37,636人	37,951人	25,251人	28,259人	27,657人

基本方針3 自然・歴史文化と触れ合う機会をつくります、です。

・自然観察会等に参加した人数です。先日郵送させていただいた資料に数値の誤りがありましたので、本日配布させていただいた資料をご覧ください。

2022年は282人という結果でした。目標値700人には達していませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で観察会等の開催を見送っていた令和2年度（2020年）から、徐々に回復しています。

・歴史文化と触れ合う市の施設に満足している市民の割合。これは、市の文化財施設に入館した人にお願したアンケートによる結果です。

令和2年度のみ、90%を下回りましたが、それ以外は目標である90%を達成しています。引き続き、各施設の展示内容に工夫を凝らし魅力的な企画を実施していきます。

・文化財関係施設の入館者数です。目標値は48500人ですが、大きく下回り、令和4年度は27657人という結果でした。今後もPRを強化し、展示を変えるなど魅力的な企画を実施していくよう努めます。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針4 3Rの取組みや環境にやさしい消費行動を推進します

環境負荷の少ない持続可能な社会を実現するためには、これまでの社会のあり方やライフスタイルを見直していく必要があります。このため資源の循環・ごみの減量と再資源化、水資源の適正利用等の促進に取り組みます。

1人1日当たりのごみ排出量							
市民一人が一日に排出する家庭から排出されるごみと事業活動で発生した産業廃棄物以外のごみの量							
目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	685g		731g	726g	741g	716g	721g
※目標値は「磐田市一般廃棄物処理基本計画」による							

地場産物を使用する割合							
学校給食における地場産物を使用する割合(使用している品目数/全体品目数)							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	20.0%		19.1%	19.4%	19.0%	20.2%	22.8%

上水道有効率							
料金の対象となった水量と消火など有効利用された水量の合計を送り出した総給水量で除したものの有効水量(有効水量+無収水量)/総給水量							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	88.1%		86.5%	85.9%	86.6%	86.6%	86.2%

基本方針4 3Rの取組みと環境にやさしい消費行動を推進します

- ・ 1人1日あたりのごみの排出量です。目標値は令和3年度に685gとなっておりますが、結果は令和4年度で721gでした。(台風の災害廃棄物を除いた場合は709g)
令和3年度に改定した「一般廃棄物処理基本計画により、新たな目標値(696g)が設定されており、今後も継続してごみの減量と再資源化に取り組んでいきます。
- ・ 地場産物を使用する割合です。これは、「ふるさと給食週間」と「全国学校給食週間」の計10日間で使用した食材について、品目数に占める市内産食材の割合です。
令和4年度は22.8%と、目標の20%を上回りました。
- ・ 上水道有効率 これは、上水道の総給水量に比較し、有効水量の割合です。有効でない水量とは、漏水を表しています。令和4年度は86.2%であり、目標値の88.1%に達しませんでした。
老朽管の更新をさらに進め、また、区域を定めた漏水調査を行い、有効率の向上に努めます。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針5 地球温暖化対策に取り組みます

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて市・市民・事業者それぞれが温室効果ガスを排出する当事者であることを認識するとともに、環境負荷の少ない製品やサービス、ライフスタイルを賢く選択することで、地球にやさしい持続可能な社会の実現を目指します。

市の施設における温室効果ガス排出量削減率 市の事務事業における温室効果ガス排出量の削減率(2013年度比)							
目標値	2023	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	16.0%		▲5.4%	14.5%	25.7%	19.9%	25.0%

エコアクション21認証登録の継続 市における環境マネジメントシステム「エコアクション21」認証登録の継続							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	認証登録を継続		認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続

※エコアクション21はあらゆる事業者が効果的、効率的、継続的に環境に取り組むための仕組み

住宅用太陽光普及率 太陽光発電設備(10kw未満)導入件数/世帯数							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	12.0%		9.20%	9.71%	10.10%	10.90%	11.5%

基本方針5 地球温暖化対策に取り組みます

市の施設における温室効果ガス排出量の削減率 これは、市の公共施設や公用車のエネルギーの使用により発生しているCO₂等温室効果ガスの排出量です。令和4年度の結果は25%の削減で、目標の16%を上回る削減率となりました。

エコアクション21認証登録の更新 エコアクション21は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム(EMS)です。市の施設や事務事業における省エネや環境配慮の取組みを評価し、認証をいただくものです。令和4年度も認証登録を継続しており、本年度も審査を終え、認証の更新が確定しております。

・住宅用太陽光普及率 これは市内の一般住宅における太陽光発電設備の設置件数を、世帯数で割って出しています。令和4年度末時点で、11.5%でした。目標値は、12%でしたので0.5ポイント下回る結果でした。今後も、設備設置に係る奨励金制度の拡充を図り、促進していきます。

令和4年度の
進捗状況について



基本方針6 環境教育を推進します

時代とともに変わりゆく様々な環境問題を解決するには、多くの市民や事業者が人と自然の関わりから学び、理解を深めることが大切です。このため幼児から大人まで広く環境に対する教育や活動の充実を図ります。

環境教育に取り組む学校の割合						
地球温暖化防止に関することなど環境教育に取り組んでいる公立小中学校の割合						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	100%		100%	100%	100%	100%
						2022
						100%

学校給食における残菜量						
公立小中学校における学校給食1回当たりの残菜量の合計						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	6kg/回		6.2kg/回	10.1kg/回	10.6kg/回	10.7kg/回
						2022
						11.8kg/回

協働による環境教育に取り組む園の割合						
環境保全団体や地域と協働で環境教育に取り組んでいる公立保育園、幼稚園、こども園の割合						
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021
	100%		100%	100%	100%	100%
						2022
						100%

基本方針6 環境教育を推進します。

環境教育に取り組む学校の割合を、各校にアンケート調査し集計したものです。市内の公立小学校すべてで、何かしら環境教育を実施していることがわかります。

学校給食における残菜量 小学校、中学校、幼稚園における学校給食の1回1箇所あたりの残菜量です。

目標6kgに比べ、令和4年度は11.8gでした。給食や食事の栄養素が過多らを作る大切なものであることを子どもたちに伝えるように指導していきます。

協働による環境教育に取り組む園の割合 市内幼稚園、保育園、こども園における、市民団体や事業者の協力を得て活動した内容について、報告を受けています。

令和4年度は、すべての園でこうした活動を行っていました。

令和4年度の 進捗状況について



事前に提出いただいた質問事項について

質問・ご意見

1. 各環境指標の実績は、市トップ層(①市議会、②市長、③市長・副市長・部門長が出席する会議)で報告されていますか？ 実績報告の頻度はどの位(四半期毎、半期毎、年1回)でしょうか？
2. 各報告での市トップ層からのコメント、指摘事項、指示事項をはじめご意見等は、どのような内容でしょうか？
3. 市トップ層からの指摘事項や指示事項等の意見は、次の期間の活動にどのように反映されているのでしょうか？ 具体例を示して説明願えないでしょうか？
4. 2022年度の実績は、市トップ層に報告されたでしょうか？ 報告済みでしたら、どのようなご意見等があったか説明願えないでしょうか？

(1) 各指標の実績は年度実績として年1回取りまとめています。
本計画に掲げた事業の実績は、関係各課により監査や議会に報告されています。

(2) (3) 市上層部からの意見として、地球温暖化対策について、若い世代に対する啓発事業を実施してほしいという指示があり、令和4年度から中学生向けの環境学習を開始しました。

(4) 2022年度の実績について、現在年次報告書をまとめており、広くホームページに公表する予定です。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

1. 環境指標に「市内の耕作放棄地面積」、「自然・歴史文化とふれあう市の施策に満足している市民の割合」、「文化財関係施設への入館者数」、「地場産物を使用する割合」を掲げる考え方を教えて欲しい。

○市内の耕作放棄地面積

本計画の緑地の保全に関する指標となっています。都市緑地法の緑地の定義には、農地も含まれています。また、都市公園等面積以外に定期的に面積を把握している緑地はないため、本計画の指標としています。

（（定義）第三条 この法律において「緑地」とは、樹林地、草地、水辺地、岩石地若しくはその状況がこれらに類する土地（農地であるものを含む。）が、単独で若しくは一体となつて、又はこれらに隣接している土地が、これらと一体となつて、良好な自然的環境を形成しているものをいう。）

○歴史文化とふれあう市の施策に「満足」している市民の割合

○文化財関係施設への入館者数

これは、平成20年度に策定した環境基本計画から引き続いているものです。当時の取組みの柱は、自然環境保全、快適な環境の創造、健康の保護及び生活環境の保全、循環型社会の実現、などとなっています。このうちの「快適な環境の創造」に「歴史文化資源の保全・活用」が含まれています。

環境と歴史文化が結び付きにくい印象を受けることと思いますが、「長い歴史を持つ本市は多数の歴史文化資源が分布しており、地域の個性でもあります。」これらを大切にすることは、地域の成り立ちを知ることでもあります。地域に愛着を持つことが、生活環境を大切にすることの礎となるものです。そのため、これらの指標が設定されています。

○地場産物の使用割合

本計画は基本方針4の目標2、「グリーン購入・地産地消等の推進」の指標として、学校給食における地場産物の使用割合を指標としています。計画の本文中にも（P18）「学校や保育園、幼稚園、こども園等の給食において地場産物を積極的に用いる」としています。そのための指標ですが、後期計画において同指標は入っておりません。

というのも、後期計画策定の際、関係各課と検討した結果、学校では食育の一環として地場産物の使用は進めていくのですが、農業振興の観点からは磐田の農産物を市外に広く知っていただくことが重要であるため、環境基本計画の後期計画ではあえて地産地消の文言をなくし、指標も変更しています。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

基本方針1暮らしやすさが実感できる環境をつくります

1. 水質に係る環境基準達成率について、補足事項で「一時的なBOD超過はあったが年平均では基準値を上回らない」とあるが、指標の内容に年平均を基準としていることを明記したらどうか。
2. 汚水処理人口普及率の目標値について、92.30%とあるが、93.48%ではないか。

1 おっしゃる通り、その旨を指標の説明に加えるようにします。（この指標は、静岡県が行っている市内5箇所の河川水の水質調査です。毎月行っている調査結果を各箇所の年平均で測っています。）

2 ありがとうございます。おっしゃる通り、第2次磐田市環境基本計画の目標値は93.48%です。訂正させていただきます。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

基本方針2「豊かな自然環境を守ります」に関して

1. 市民一人当たりの都市公園等面積ですが、ここ7年間殆ど増えておらず、目標未達です。2022年度の目標値は「磐田市緑の基本計画」に準ずるとなっていますが、市として公園等を増やす計画は無かったのでしょうか？ それとも増やす計画はあったが実行されなかったのでしょうか？
2. これから都市公園等をどのようにしていくのか現在の具体的な計画を教えてください。
3. 市民一人当たりの都市公園等面積について、補足事項が「変化なし」で記載が終わっているが、他の目標同様に今後の方針や計画などを追記したほうが良いのではないか。

1・2 この指標のもととなっている緑の基本計画ですが、これは平成20年度に策定された計画で、最終目標を平成38年度、つまり令和8年度としています。この計画に則り、これまで大池公園やエコパーク、今之浦公園などを整備してきました。

令和5年度の現時点において、本市に都市公園を増やすという計画はありませんが、区画整理や開発事業で公園・緑地が増える際には整備、充実を図っていきます。

3 おっしゃる通り、今後の方針等を記載いたします。

令和4年度の
進捗状況について



質問・ご意見

「基本方針3 自然観察会への参加人数」について

1. 参加人数は、市が主催する行事だけをカウントしているのか？
2. それ以外に、例えば指定管理者に委任している施設のイベントや市民活動センターに登録している民間団体などのイベントも含めているのか？R4の「237人」の内訳を例にして具体的に教えてほしい。

1 市が主催するものだけでなく、桶ヶ谷沼を考える会に業務委託している桶ヶ谷沼ビジターセンターで実施された調査会や観察会の参加人数も含めています。

2 令和4年度実績の237人は誤りで、282人でした。（ベッコウトンボ調査会36人、ビジターセンター行事77人、桶ヶ谷沼を考える会主催の桶ヶ谷自然塾149人、磐田市環境学習会他20人）

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

基本方針4「3Rの取組みや環境にやさしい消費行動を推進します」

1. 一人一日当たりごみ排出量ですが、2016年度に比べ増加傾向にあるといえます。2022年度は、災害廃棄物を除いた場合でも目標未達となっています。ごみ排出量削減に向けて具体的にどのような施策を実施、或いは計画しているのか説明願います。
2. 現在も、家庭の生ごみ減量のための施策として、コンポスト容器やばかし容器の購入費の補助を行っていると思うが、どれくらいの申請件数があるのか？
3. マンションの住民などのためにも「電動式の生ごみ処理機」も補助対象に含めたらどうか？

(1) コロナ禍において増加した家庭ごみの排出量は落ち着きつつありますが、引き続きごみの減量に向けて、可燃ごみに含まれる生ごみの削減と紙類の再資源化を啓発していきます。

具体的には市内事業者及びいわた消費者協会との、「食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みに関する協定」に基づき、「値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーン」を開催するとともに「雑がみ530（ごみゼロ）スタンプラリー」を実施するなど、ごみ減量の啓発活動に取り組んでいます。

2 補助金については今年度も実施しており、9月号の広報でも紹介記事を掲載予定です。

実績ですが、平成30年度41基、令和元年度45基、令和2年度100基、令和3年度87基、令和4年度101基となっています。

3 電動式の生ごみ処理機については平成21年度までは補助対象としていましたが、電気を使用するという点で環境に配慮する観点から補助対象外とした経緯があります。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

4. 今後の施策として、より積極的に継続的に「ゴミ減量作戦」を、市民からもアイデアを募って行ったらどうか？
5. ごみ対策のうち、プラスチックごみの回収とリサイクルについて、現状と今後の方向を教えて欲しい。
6. 福田地域では海岸や河川のごみ拾いに取り組んでいますが、河川の流域や市民全員が運動として取り組むべきことと考えます。積極的な市の推進を期待しますが、対応についてご教示願います。

4 市民からのアイデア募集については、これまでも食品ロスアイデアコンテストやごみ減量標語の募集を実施してきましたので、ご意見も参考にしながらごみの減量に取り組んでいきたいと考えます。

5 A:現状では、プラスチックごみについて、プラマークのあるものはプラスチック製容器包装、それ以外のプラスチック製品は可燃ごみとして回収を行っています。プラスチック製容器包装はリサイクル事業者において、ハンガー、作業着などにリサイクルされています。
今後は、現在可燃ごみとしているプラスチック製品を一括回収して、リサイクルする方向で検討していきたいと考えています。

6 ・環境化統一行動に合わせて実施していただいている海岸清掃をはじめ、日頃の福田地域の住民の皆さんによる自主的な清掃活動に感謝申し上げます。
・近年、市民の環境意識が高まる中、市民ボランティアやNPO、企業等による海岸清掃活動は年々増え、市は、昨年度125回の海岸ごみ回収を行いました。
・引き続き海岸清掃を自主的に行っていただいている個人や団体の活動を支援するとともに、海岸の管理者である県と連携しながら海岸の環境保全に努めてまいります。

令和4年度の
進捗状況について



質問・ご意見

基本方針5 地球温暖化対策を推進します

1. 上下水道有効率が、ここ7年間殆ど改善しておらず、目標未達です。2022年度実績86.18%は、静岡県全体或いは全国レベルと比較してどのようなレベルでしょうか？
2. また、目標達成に向けた具体的な計画、施策を説明願えないでしょうか？

1 令和3年度のデータで、県平均値は87.6%です。磐田市は概ね平均的な値となっています。

2 有効率を向上させるには漏水を減らしていくことが必要ですので、漏水が多い地区を中心に漏水調査を実施し、有効率の向上に努めます。

令和4年度の
進捗状況について



質問・ご意見

基本方針5 地球温暖化対策を推進します

1. 公共施設からの温室効果ガス削減率 16%は-16%の表記誤りではないか。ご確認ください。

資料の表記について、ご指摘いただきました。ありがとうございます。事前にお送りした資料では、削減した成果について、マイナス表記をしていましたが、指標値が「削減率」であるので、+の表記に修正させていただきました。

令和4年度の
進捗状況について



質問・ご意見

基本方針6 環境教育を推進します

1. 環境教育を受けた生徒、先生のアンケート結果などがありますか。
2. また、環境教育の効果はどのようなことがあったのですか。

環境教育の内容については、各学校から対象学年、実施内容を報告してもらっています。

小学校の教科に「環境」という項目はないため、理科や社会、総合学習などで関連する学習を行ったものを報告してもらっています。

その中で、環境課が小学校で実施するアース・キッズ事業では、先生と子どもたちにアンケートを実施しています。

環境教育の効果は、測ることが困難ですが、このアース・キッズ事業に関する先生のアンケートの中で、

実施後に児童が「今日は風が気持ちいいからエアコンいらないよ。」という声もあがるなど、省エネを意識するようになったなどの回答があり、意識啓発として一定の効果があったことがうかがえました。

また、この事業は年々希望する小学校が増加し、昨年度は1校を除く市内小学校21校で実施されるなど、学習効果が教育の現場で認められていると考えられます。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

「基本方針6 学校給食における残菜量」について

1. 学校現場でも既に工夫されていることと思うが、低学年から「食育」を通して、成長期の健康な体づくりの大切さを子どもたち自身に理解してもらうことが大事だと考える。

世界には食べたくても食べるものがない、食べられない子どもたちがたくさんいる。一方、日本は食物の廃棄量が大変多いと聞く。このことを考えると、やはり子どもたちにも「給食を残す→食べ物を捨てる→もったいない!」という意識を持ってもらいたいと思う。

「残すな」と言うのではなく、世界の子どもたちの現実を学習した上で、給食の残菜量や家庭での食べ物の廃棄量を減らすためにはどうしたら良いのかを、子どもたちにも考えたり、話し合ってもらったらどうか？

2. 生徒、先生は、給食の残菜(給食に限らず)についてどのような意識があるのか。食べ物は残さない方が良いと思っているのか。意識調査などある？

1 学校では生活科や理科の時間には野菜を育て、中学校の総合学習ではSDGsを学びます。

また、クリーンセンターの見学ではごみ減量の大切さや食品ロスの問題について学びます。

このように、幼児から小学校、中学校と蓄積することで、「もったいない」が身についていくと考えています。

2 意識調査は行っていないが、食べた物が自分の栄養になることや給食が提供されるまでにたくさんの方が関わっていること、食材や作られた食べ物に対し感謝して食べることの大切さなど給食を通じて食べることの大切さに気づいてもらえるよう食育活動を実施している。

又、食べられる量を配膳する等、工夫することで、行き過ぎた指導にならないよう配慮している。

令和4年度の 進捗状況について



質問・ご意見

その他

1. 資料をメールで送っていただくのはどうでしょうか。理由は「①ゴミが減るのでは・②コストや作業時間の削減になりそう」と思いました。（個人的には紙よりもデータの方が管理しやすい。ですが、紙の方が管理しやすい方もいますよね…）また、紙の場合と、データの場合のコスト・工数についても気になります。メリット・デメリットも気になります。

ご提案ありがとうございます。メールでの配信はぜひ進めていきたいと考えております。

次回から、メールを希望される方にはメールによる資料の送付を行います。



(3) その他

- ・いわた節電促進キャンペーン
- ・「ゼロカーボンシティいわた」ロゴマークの決定について

その他

ZERO CARBON CITY
IWATA

いわた節電促進キャンペーン

節電を達成できた家庭に対し、毎月抽選で30人にLINE Pay残高2000ポイントをプレゼントします。

対象月: 7月~9月、12月~2月

月ごとに締め切りを設けている。7月は、 人応募。

- 1 申請者数 : 93人
- 2 節電効果 : 7,503.9kWh (消費電力削減量)
※ 1か月当たり約21世帯分の電気使用量に相当
- 3 CO2排出削減量 : 3,249.19kg-CO2
- 4 賞品 : LINE Pay残高2,000円相当×30名 (合計60,000円分)
- 5 予算措置 : 4款2項3目 地球環境保全事業
12節 委託料 01細節 業務及び事業委託料 885細々節
省エネ推進事業委託料 513千円から支出

※詳細は、別添のとおり

「ゼロカーボンシティいわた」ロゴマーク

市内小中学生約3,118人(小学5年生以上)が投票

その他



令和3年6月に表明した、ゼロカーボンシティを目指す取り組みのシンボルとして、ロゴマークを作成しました。

市内小中学生に投票をお願いし、7千人中3千人以上の投票をいただき、その中で最も多くの票を集めたこのマークが採用となりました。

今後、広報誌や動画、環境学習の場などで活用していきます。